

153. BISTRO 下水道って何

技術戦略部次長 白崎 亮

4月より技術戦略部次長を務めております白崎です。よろしくお願いたします。「下水道よもやま話」の執筆ははじめてになりますが、前々職で携わった「BISTRO 下水道」について少し書いてみたいと思います。

まず、「BISTRO 下水道」という単語ですが、国土交通省の方が思いつかれた造語で、聞き慣れない方、聞いたこともない方もおられるかもしれません。しかし、どれくらい知れわたっているかとなると、なんと現在では、「2016 現代用語の基礎知識」に掲載されるまでになっています。(何と、掲載されていることを、本屋で発見したのも国土交通省下水道部の職員です！)

確かに、1 昨年以來、新聞やテレビに取り上げられることも多く、私も NHK 国際「NEWSLINE」や関西テレビに登場したりしています。また、JR 東日本の山手線などのトレインチャンネルにも取り上げられています。「BISTRO 下水道」は、ネーミングも含めて PR 戦略がうまくいった事例ではないかと思えます。

さらに、昨年、イタリアのミラノで開催された国際博覧会にも「下水道が生み出すチカラ」～新しいいのちの循環～、をテーマとして出展しており、「BISTRO 下水道」は世界に進出するまでになっています。

さて、本題の「BISTRO 下水道」の内容ですが、農作物の栽培に、下水汚泥から製造した肥料、再生水を利用するといった従来からある下水道の資源利用に加え、発電過程で発生する二酸化炭素・熱をハウス栽培に活用するといった実証レベルの取り組みも行われています。JSでも、「バイオガス中のCO2分離・回収と微細藻類培養への利用技術実証事業」(株東芝・株ユーグレナ・日環特殊株・株日水コン・佐賀市との共同研究)で、微細藻類の培養に取り組んでいます。

下水処理場には、窒素・リンはもちろん、水やCO2といった農作物の栽培に必要な物質が揃っています。し尿の農地還元を中心に江戸時代から行われてきた資源循環ですが、「BISTRO 下水道」の取り組みを契機に再び脚光を浴びているような気がします。江戸時代と異なり、資源循環は科学的になり、安全性はもちろん糖分といった作物の食味に下水道資源が与える効果も明確になってきています。みなさんも一度、「BISTRO 下水道」をはじめとする下水道資源の有効利用について考えてみてはいかがでしょうか。下水道が地域の活性化にも役立つかもしれません。